

歌が生まれる

校歌制作レポート 第17回



イラスト：山崎奈緒

初稿「イキ」となりました

10月1日、事務局より、以下の連絡がありました。

～前文略～ 学内において新校歌の初稿を共有し、教職員・学生を対象にアンケートを実施いたしました。

その結果、全体としてほとんどが好意的な意見であり、新しい校歌として大変良い評価をいただいております。また、学長、副学長はじめ、教職員各位、各部署にも改めて確認し、現在の作詞・作曲の内容で進めることについて了承をいただきました。

つきましては、作詞・作曲ともに現在の内容で正式に進めさせていただきたいと考えております。

Youtube にアップした試演動画の閲覧数は9月末時点で500回を超えており、これは、短大の所帯約300名（在學生は250名＋教職員）全員が一通り視聴したもの、と、まあ考えてよいでしょう。その結果として「ほとんど好評」とのことなので安堵しています。聴いてくださった皆様、有難うございました。

さて、これからやることは…。

町田育弥 Profile

桐朋学園大学で作曲を専攻。中・高等学校教諭、音楽大学講師など常に教育に携わりつつ、作・編曲・演奏活動を展開。作品は、歌曲、室内楽、吹奏楽、管弦楽、劇音楽など多岐におよぶ。著書にピアノ教本「みみをすます」全4巻、歌曲集「あったかい」などがある。2014～2020年まで本学幼児教育学科教授を務めた。現在、本学客員教授、認定こども園恵泉幼稚園（さいたま市）園長。

♪♪♪ 10月5日 レポート

これからやること

1) 前奏・後奏の確定

「作詞・作曲ともに現在の内容で正式に進め～」てよい、とのことなので、すでに作った部分を修正することはせず、試演の時に即興で何となく弾いていただけだった前奏・後奏部分を楽譜化します。

2) 3種類の楽譜作成と、記載内容・クレジット表記の確定

変イ長調版とト長調版、2種類の演奏用スコア（総譜）の浄書と、学校案内に掲載用のヴォーカルスコアの作成。それらにおいて、作者表記をどうするか？ これを決めなければなりません。

普通は 作詞：何某、作曲：何某 と表記しますが、今回の場合、単純に作詞・作曲：町田育弥としてしまうと、「公募」が消えてしまいます。共学化に伴う記念事業として「公募による語彙収集から立ち上げた」新校歌制作ですから、その経緯が後々まで分かるようにしておいた方がよいのではないのでしょうか？ そこで…

- ① 作詞・作曲：町田育弥 ではなく 歌詞構成・作曲：町田育弥とする。
ただしこれだと「歌詞構成って、作詞と違うの？何？」となりそう。
- ② 作詞・作曲：町田育弥 と書いておき、余白部分に「かくかくしかじかの記念として、公募した歌詞素材をもとに作詞作曲された」旨を明記しておく。
- ③ ② のような欄外付記をした上で、歌詞構成・作曲：町田育弥とする。
・・・という3種類の案を出して、現在学内で検討していただいています。

3) 題名をつけるか？ つけるならどうする？ を決める

上の2)を考えるうちに「そうだ、タイトルは？」と思いました。

2019年に私は短大附属幼稚園の園歌を作りましたが、それには「あしたのわたし」というタイトルをつけています。同法人で同キャンパスにあり、作ったヤツが同じなら、こっちにもあった方がいいかな？ということ。私案としては「風に問う」または「時空(とき)をこえて」です。タイトルの要不要、つけるなら町田案でよいか？ それとも別の方法で決めるか？ など、これも学校に投げて検討していただいています。

さて、今回は最終回（予定）。ようやく最終報告ができそうです。